

同朋講座



講 師

う か い さとし
鵜飼 哲 先生

一橋大学名誉教授

講 題

「ジェノサイドを止められない

世界と〈私たち〉

～東欧・中東の戦乱から日本

の平和主義を考える～」

日 時 2025.12.13 (土) 14:00～16:20

会 場 本願寺備後教堂 福山市東町 2 - 4 - 5

TEL084-924-5759 FAX084-931-9323

参加費 1, 0 0 0 円 (当日受付)

講師プロフィール

一橋大学名誉教授。専門はフランス文学・思想、ポスト植民地文化論。著書に『抵抗への招待』（みすず書房、1997 年）、『応答する力—来るべき言葉たちへ』（青土社、2003 年）、『主権のかなたで』（岩波書店、2008 年）、『ジャッキー・デリダの墓』（みすず書房、2014 年）、『テロルはどこから到来したか——その政治的主体と思想』（インパクト出版会、2020 年）、『まつろわぬ者たちの祭り—日本型祝賀資本主義批判』（インパクト出版会、2020 年）など。訳書にジャン・ジュネ『恋する虜』（共訳、人文書院、1993 年）、『アルベルト・ジャコメッティのアトリエ』（現代企画室、1999 年）、ジャック・デリダ『盲者の記憶——自画像およびその他の廃墟』（みすず書房、1998 年）、『友愛のポリティクス』（共訳、みすず書房、2003 年）、『ならず者たち』（共訳、みすず書房、2009 年）、『動物を追う、ゆえに私は（動物で）ある』（筑摩書房、2014 年）など多数。

備後教区事業推進委員会 同朋社会部会主催

同朋講座参加申込書

組	寺・坊	お名前
組	寺・坊	お名前
組	寺・坊	お名前

※12月4日（木）までに FAX 等で備後教区教務所内同朋社会部会事務局までお申し込ください。

※参加費は当日受付（13：30～）にてお預かりいたします。（参加費お一人1000円）

同朋講座開催にあたって（文：同朋社会部会）

宗門の「平和に関する論点整理」（戦後80年版）では、ロシアによるウクライナ侵攻やハマスとイスラエルの武力衝突などを上げ、平和構築に向けて何ができるかを検討し、戦後の取り組みや戦争協力の実態を振り返り、再び同じ過ちを繰り返さないための基礎を共有することを課題としています。このたびの同朋講座開催にあたっては、戦後80年を迎え、今もなお起こり続ける戦争の悲しみ痛みを我が事として受け止め、平和構築と信仰を考える機縁とするものであります。

今日、人間関係を、支配と服従という関係性でしかとらえられない人は、相手を支配しなければ自分が支配されるという恐怖から強権的な態度をとりがちになります。この考えが国家観と結びつき全体的な政治思想になるとファシズムになります。

ファシズムは第二次世界大戦という最悪の悲劇を生みました。その反省から戦後、世界は民主主義を理想としてきました。支配と服従という前近代的な関係性から人間を解放することも、戦後民主主義の目的のひとつだったのです。しかし今、世界はその理想を見失いつつあるように見えます。

アメリカの大統領は、パレスチナ問題やLGBTQなどに関するデモに参加する学生を取り締まらない大学には補助金を打ち切ると脅し、州兵や軍隊まで動員しかねません。平和的なデモを弾圧する一方で、議会の襲撃した保守派の暴徒には恩赦を与えるという矛盾を平気でやっつけます。一方、中国やロシアも国内の民主的活動や他民族を弾圧し、覇権に余念がありません。

アメリカの哲学者ジェイソン・スタンリーは、`ファシズム10の柱、として、①神話的過去②政治宣伝（プロパガンダ）③反知性主義（高等教育への攻撃）④非現実性（陰謀説）⑤階層構造（ヒエラルキー）⑥被害者意識⑦法と秩序⑧性的不安⑨ハートランド（保守的で伝統的な価値観が支配的な地域）への回帰⑩社会福祉の団結の解体をあげています。今日、世界中の多くの国で極右ナショナリズムが支持を拡大しています。それぞれの国に独特の背景があるため、一括りには出来ませんが、それでも`ファシズム10の柱、は共通する要素ではないかと考えられます。

差別や排外主義は、ファシズムを支える柱の一つです。神話的過去や被害者意識は差別を正当化する理由として用いられ分断を生み、争いの元になります。

アメリカのキリスト教福音派や日本の統一教会から想起されるように、宗教が政治に利用されるのは、信仰集団が権威と全体主義、支配と服従という関係性（ファシズム）をはなから持っていることによるものです。それは私たちも例外ではありません。

今、私たちが浄土真宗のみ教えに基づき平和構築に向けて出来ることは何か、共に考え、学んでいきたいと思います。